

## ■会場案内図

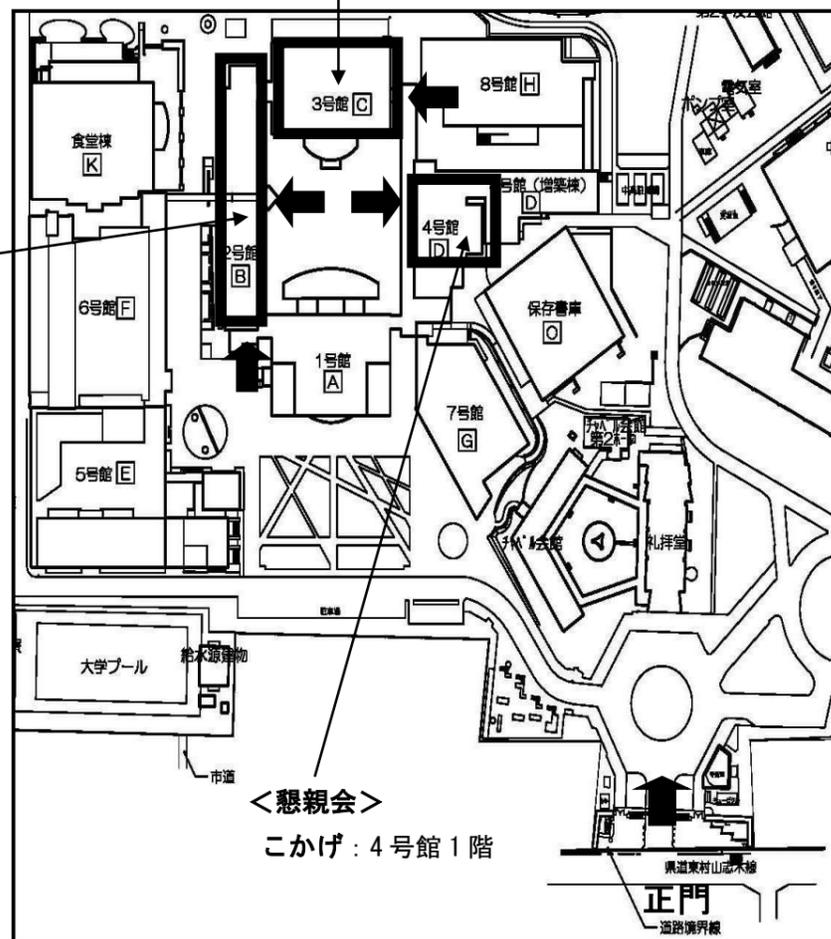


出入口：建物への入館可能箇所です。

※キャンパス内の出入り可能箇所が限られています。下記を参照のうえ、移動をお願い致します。

<講演会> N321：3号館2階

<分科会> 2号館  
N212：1階1号館より  
N221・N222・N223：2階



<懇親会>  
こかげ：4号館1階

JR 武蔵野線 新座駅 ← → 東武東上線 志木駅

## ■運営委員会からのお知らせ

コミュニティ福祉学会“まなびあい”運営委員会では、運営委員になってくださる方を募集しています。

- ・年1回の年次大会、例会などに向け、隔月1回程度で運営委員会を行っています。
- ・委員は、在校生・卒業生・先生から構成されており、様々な方と知り合い、交流できる機会になります。
- ・やってみたい企画を、実現できる場にもなります。

関心のある方は、事務局(担当：佐藤)までお気軽にお問い合わせください。

<コミュニティ福祉学会事務局> Tel 048-471-7308(火・水・木 10:00~15:00) Mail cchs@grp.rikkyo.ne.jp

MEMO

.....

.....

.....

.....

.....

.....

「未来に向けて、ゆたかさを問い直す―多様化する価値観のなかで―」

# コミュニティ福祉学会 “まなびあい” 第5回年次大会

2012.11.11. Sun  
12:30-19:30

プログラム

■ 開場・受付	12:00~	N321
■ 総会	12:30~	N321
■ 講演会	13:15~	N321
■ 分科会	15:30~	各会場
■ 車座座談会	17:00~	N212
■ 懇親会	18:30~	こかげ



# コミュニティ福祉学会“まなびあい” 第5回年次大会 「未来に向けて、ゆたかさを問い直す—多様化する価値観のなかで—」

2011年3月11日の東日本大震災。震災により、生活・経済・産業…と多方面に甚大なる影響が及びました。そうした影響は、私たちの暮らしを揺るがすとともに、物質的・経済的豊かさが幸せにつながるのだろうか？等、私たち一人ひとりに、価値の転換や捉え直す機会を投げかけているのではないのでしょうか。震災後、特に価値観が多様化するなかで、今大会は、改めて“ゆたかさ”について考えることをテーマに掲げました。講演会・分科会を通し、一人ひとりが“ゆたかさ”について改めて考える機会になればと思います。知識ではなく現場での経験や知恵を持ちより、互いに学びあうことを大切にしている“まなびあい”。発表者とフロアとの活発なやり取りを目指し、皆さんの疑問・質問・ご意見など、各会場にて是非お聞かせください。

+++++

## ■プログラム

12:30~13:00	<b>総会</b> 運営委員会の一年間の活動報告を行います。	N321
13:15~15:15	<b>講演会</b> <b>「哲演住職が問うころのあり方 —若狭原発と向き合って45年—」</b> 古刹・福井県明通寺の住職である中嶋哲演氏をお迎えし、若狭原発と向き合ってきた半生を伺います。  【講師：中嶋 哲演 氏】 真言宗御室派 欄山 明通寺 住職 1942年、福井県小浜市出身。東京藝術大学中退。高野山大学仏教学科卒。 学生時代から広島被爆者支援を続ける。68年、小浜市に原発建設の計画が持ち上がったことを機に、「原発設置反対小浜市民の会」を結成。事務局局長を務める。93年「原子力行政を問い直す宗教者の会」結成に参加。 著書に『原発銀座・若狭から』（光雲社）、『いのちか原発か』（風媒社）など。	N321
15:30~17:00	<b>分科会</b> 各教室ごとに、発表を通して最後に参加者全員でまとめの座談会を行います。 ※詳細は、右記をご覧ください。	N212 N221 N222 N223
17:00~18:00	<b>車座座談会</b> “まなびあい”運営委員会企画「福祉について考える座談会」 NPO 法人バラエティクラブジャパン代表理事 千葉祇暉氏をお迎えし、ご自身の体験やお話を伺い、障害をもつとはどういうことか、障害とは何かといった改めて福祉について考える座談会です。	N212
18:30~19:30	<b>懇親会</b> 参加者同士、和やかな雰囲気での交流会。  *参加費 《学生・院生》無料 《卒業生・一般》1000円 《教員》2000円	こかげ

\*ご不明点、お困りのことなどございましたら、お近くのスタッフまでお声かけください。

## ■分科会発表

会場	発表者(所属)	発表形式	発表タイトル・概要
N212 2号館1階	代表 高久田 慧介 (コミュニティ政策学科・ 社会調査実習 質的クラス 和ゼミ)	団体発表	<b>「地域社会の課題解決に向けて ～子ども、スポーツ、まちづくり、震災、障がい者、コミュニティの視点から～」</b> コミュニティ福祉実現の一翼を担う調査研究のために、地域社会の課題ごとに6グループに分かれ、質的調査を行いその結果を分析することによって探索的に課題解決方法を見出すなどの質的研究に取り組んでいる。そこで、地域社会の課題解決に向け、子ども支援、スポーツ、まちづくり、東日本大震災被災者支援、障がい者支援、コミュニティ形成の視点から、各6グループが中間報告を行います。
	代表 杉山 茉莉香 (スポーツウエルネス学科・ 沼澤ゼミ)	団体発表	<b>「子どもの健康と運動環境」</b> 我が国における子どもの健康や運動環境について、睡眠時間や運動時間などの生活状況、体格・体力の年次推移、スポーツ経験、ジュニア選手のトレーニングなど様々な視点から検証して、日本の子供たちの未来を考える。
N221 2号館2階	代表 伊藤 友梨 (スポーツウエルネス学科3年生・ 松尾ゼミ)	団体発表	<b>「子どもスポーツ復興計画 —女子に着目して—」</b> 現在、運動をする子どもとしない子どもの二極化が進み、特にその傾向は女子において顕著に表れる。体力・運動能力の低下は、生涯、健康な生活を営む上での基盤を揺るがす問題である。本発表は、幼児期に行う運動遊びから、より競技性の増すスポーツへの移行をスムーズにし、長期目標として子どもが大人になる時スポーツに親しむ人が増えること、短期目標として子どもにスポーツとの接点を作りスポーツの楽しさを伝える「子どもスポーツ復興計画」を提案する。
	代表 加茂 祐樹 (スポーツウエルネス学科3年生・ 松尾ゼミ)	団体発表	<b>「2030年夏季東北ユースオリンピック招致に向けた提言」</b> ユースオリンピックは、スポーツの持つ力や可能性を伝える重要な契機であり、ユース世代を対象としていることから青少年への教育効果が期待できる。そこで、若い力が震災復興のカギを握る東北に招致し、今年生まれた子どもたちが18歳になった2030年の夏季東北ユースオリンピックで選手としてチームを引っ張り、スタッフとして大会運営できるよう、段階的に子どもたちへのサポートをしていきたい。震災復興にスポーツビジョンをリンクさせ、東北をスポーツの持つ力、子どもたちの持つ力で再興するためにユースオリンピック招致の必要性を提言したい。
N222 2号館2階	元 壽敏 (コミュニティ福祉学研究科 博士前期課程)	個人発表	<b>「在日本韓国人の老親扶養意識に関する研究」</b> 1) 研究動機と研究成果 2) 在日本韓国人100人に対して行った質問紙調査の集計結果 3) 質問紙調査の結果を補足するためにインタビュー調査の内容を含めて紹介
	代表 田中 祐一郎 (福祉学科3年生・ 芝田ゼミ)	団体発表	<b>「孤立化への処方箋」</b> 芝田ゼミ(3年生)と「医療生協さいたま協同病院」と協働で、無保険状態にある患者や地域の方を対象に生活実態調査を行い、「孤立化・無縁化のプロセス」を解明し、孤立死(孤立化・無縁化が前提となる)防止のためのアウトリーチ手法を用いたモデル構築を試行することとなった。この調査結果を発表します。
N223 2号館2階	新谷 健介 (コミュニティ福祉学研究科 博士前期課程)	個人発表	<b>「被災者に対する心理面への長期的で効果的な支援の探索」</b> 本研究は、被災者の支援策の検討にあたって、従来の臨床心理学に加えてポジティブ心理学からの視点である学術的な枠組みを導入し、被災者のポジティブな心理的变化を各要素に分類して分析を行い、被災者の心理的側面での「根拠を基にして希望を見出すことができる長期的で効果的な支援体制の枠組み」を構築することを目的とした。その研究・調査の報告をします。
	陸前高田プログラム 参加者有志	団体発表	<b>「陸前高田市における“ゆたかな生活”」</b> 2011年11月にコミュニティ福祉学部が陸前高田市に開設した「陸前高田サポートハウス」。ここを拠点・住み家として行ってきた学生の活動を報告します。家に住み、多くの電化製品に囲まれ、電車で出掛け、何でも買える店が有り、何一つ不自由なく生活している都会の私たちにはない「豊かな生活」がそこにはあります。プログラムに参加した学生に、実感した「豊かさ」を語ってもらいます。